

CL伊藤碩志 田中健 山崎義男 加藤康男 鈴木鉄也 梅原秀一 武部慎
蔵田道子

上野発 22:37の急行津軽青森行は寝台列車を座席に直した物だった。我々は二人で1ボックスを占め椅子をずらせて寝台に変え睡眠を取った。T氏は上段の寝台を降して悠然と寝て車掌に「寝台料金払っていないだろ」と警告された。

山形でタクシー運転手に勧められ、直接坊平スキー場に行くことになった。シュプール蔵王で来る山崎さんを待ち、一人2000円の約束で3台に分乗して出発した。先頭車のスパイクが減っていて、遅い。坂道でついにストップしチェーンを付けることになった。I氏運転手に「それ、引っ掛けるとこないよ。」「そうだね。別のにする。」「それ、裏返しだよ。」「チェーンは内側から掛けるんだよ。」この間にメーターは2000円も上がった。

スキーハウスについた。カレー、コーヒー、ミルクなどを頼んだ。リフトは8:30からなので少しゆっくりする。8:45やっとリフトが動いた。山形蔵王と違い古い遅い。乗り継ぐごとに動くまで待たされ、3本目を降りたときは9:30だった。

視界が20mぐらい。加藤さんがトップで出発。緩い登りだ。トップを変わった武部さんは、たびたび磁石と地図を見ながら進む。標識らしい3m程の杭が20mおきぐらいに現われた。同じコースを帰るかもしれないので、目印にと杭に付いたエビの尻尾を落としていく。横切った車道には1本の新しいシュプールがあった。

避難小屋についた。県境問題を忘れるなという落書があった。山形県と書いた道路標識が現われた。杭を確認しながら行くと、夏リフトが見つかった。リフト添いに登ると右手にもリフトが現われ、すぐ稜線だった。道標の所で、右に進路を変え、シュカブラだらけの雪原に行く。少し離れると先行者が見えなくなるほど視界が悪い。

神社に着き、風を避けて行動食を取りながら下山コースを相談する。刈田岳の山頂を越えて澄川に下ろうと出発。杭に添って進むとコースは次第に下っている。これはどこへ行く道？我々は登りたいのだ。引き返すことに決定。神社の所で記念撮影してから、シールを外して滑る。下りは風を正面から受け凍症になるかと思うほど顔が冷たく痛い。

雪面がはっきり見えるのは5mほど。ガチガチでこぼこの斜面を下るとレストハウスにでた。登りでは見なかった。登るときのは違う金属のポールが在り蔵王エコーラインの除雪用らしい。ここで先程すれちがった3人の山スキーヤーに再び会

う。重装備の彼らは烏帽子から来たという。登るとき見た夏リフトを捜してトラバースすることになる。地図と磁石を頼りに小さな沢を2回越える。でもこのメンバーで遭難するはずが無いと思う。

南側のリフトに着いたときに安堵の声があがった。リフト添いに下ると車道にでた。見覚えのある道路標識との登りのシュプールを見つけた時は、再び安堵の声があがった。杭添いにでこぼこの斜面を下った。長いなあの声もでる頃リフトの上のパトロール小屋に着いた。入山届けを出した小屋に下山届けをし、ゲレンデを下った。スキーハウスで休み、タクシーで上の山にで、米沢 福島で乗りかえ新幹線で帰った。

濃い霧で景色がほとんど見えなかったので、心残りである。今回は登りより下りに時間がかかっている。日帰りでも好天に巡り合えればいいけどね。交通費が半分の1万円くらいだと来週また行こうの声も出たかもしれない。

(コースタイム) リフト上9:40 神社11:10/11:50 スキー場2:00

(交通費) 上野ー山形 5670x2 急行1240 新幹線3500 タクシー2000 1400 リフト700 計 20180円 (リフト11回券 2200円 タクシー 柳上山 4200)

